

みやこじまつづらふぢノ自生地ヲ見ルノ記



(第一圖) みやこじまつづらふぢ (Cissampelos insularis MAK.)

(昭和三年八月十一日薩州川原郡西南方村坊ニテ撮影)

○みやこじまつづらふぢノ 自生地ヲ見ルノ記

薬學博士 落合英二

余ハ數年來防己科植物ノ成分ヲ探ツテ居ルノト生來ノ旅行好キカラ閑サヘアレバ防己ノ類ノ自生地ヲ遍歴シテ居ル

昨年モ其目的デ九州ニ行キ夏休ヲ棒ニ振ッタノミナラズ生來ノ無茶カラ休ノ後半ハ静養ニ費シテ仕舞ツタガお蔭デみやこじまつづらふぢノ大群ニ接シ甚ダ愉快デアツタ

みやこじまつづらふぢ (Cissampelos insularis MAK.) ハ本邦ニ於テハ一屬一種ノ特產品デ其產地ハ琉球、九州、紀州ニ限定サレテ居ル多年生ノ蔓本植物デ實ニ東京植物學雑誌第二十四卷ニ始メテ牧野先生ノ命名發表サレタモノデアル其詳細ハ省略スルトイテ余ガ昨年田代善太郎氏ノ好意デ實見スルコトヲ得タモノハ鹿兒島縣河邊郡西南方村



(第二圖) みやこじまつづらふぢ (Cissampelos insularis MAK.)
(同 上)

今之ヲ其下カラ見タモノガ第二圖デアルガ
是レデ見レバ澤山ノみやこじまつづらふぢ
ノ蔓ガ樹幹ニ一面ニプラサガツテ居ルノガ
見ラレル盛觀ヲ呈シテ居タ、之ヲ往年長井
長義博士ノ邸内デ空シク落命シタ（其寫真
ハ本誌第四卷第二號ノ口繪ニ出テ居タ）お
ほつづらふぢノ古木ナドニ比較スルト到底
同日ノ談ニハナラナイ

實ハモット大キク撮影シタカツタノデアッ
タガ近クデハトテモ現在ノ「カメラ」ニ收
メルニハ餘リニ大キイノデ殘念ナガラ全體
ヲ遠方ヨリ寫シテ來タノデアルガ其儘筐底
ニ秘藏スルノモ殘念ダカラ本誌ノ紙面ヲ拜

借シテ同好ノ士ニオ目ニカケテオク

○植物ノ學名ニ使用セル種名ノ解釋 (前ヨリ續ク)

牧野富太郎

シーボルト氏 (獨逸ノ學者) ノ

Sieboldi. 同上

Sieboldianus. 支那ノ

sinicus. 同上

spathulatus. 瓢形ノ

spicatus. 穗狀ノ

spiciformis. 穗狀花狀ノ

spicigerus. 穗狀花葉ノ

spinosus. 刺針ヲ有スル

spinosissimus. 極多ノ刺針ヲ有スル

stoloniferus. 匍枝ヲ有スル

striatus. 線條アル、縱溝アル

strictus. 勁直ナル、真直ナル

sulcatus. 有溝ノ

tataricus. 鞍韁ノ

rubens.	赤色ノ
rufinervus.	赤褐色ノ脈アル
rufus.	赤褐色ノ、赭褐色ノ
saccharatus.	砂糖ヲ生ズル、甘味アル
sacchariferus.	砂糖ヲ有スル
sachalinensis.	樺太ヨリノ、樺太ニ在ル
sativus.	播種ノ、耕作シアル
saxiragaefolius.	フ有スル 半重瓣ノ、半八重咲ノ 灰色ノ
senescens.	ゆきのした屬 (Saxifraga) ノ如キ葉
sepiarius.	藩籬ヲ成セル
septiferus.	鋸齒アル
sessilifolius.	無柄葉ノ
sessilis.	無柄ノ、無梗ノ
sibiricus.	シベリアノ